

ヘルスサポート事業における検討事項を 踏まえた今後の進め方について

今回ご意見いただきたい事項

① 短期的な検討事項における令和 6 年度の進め方（検討内容・方法等）について

I. 報告や調査の見直し

II. マニュアル・ガイドの見直し

III. 事業報告会（支援・評価委員会報告会）のあり方

② 中長期的な検討事項における今後の展望について

IV. 支援・評価委員会、運営委員会の役割・体制のあり方

V. 国保連合会支援のあり方

VI. ヘルスサポート事業の推進体制のあり方

VII. 人材育成のあり方

短期的な検討事項

実施概要

- 支援保険者数の増加により支援・評価委員や事務局の負担が増加している。国のマニュアル・ガイドライン等も充実し、本会の資料と併せると膨大な量となっている。
- 本会の資料について整理することにより、委員・事務局の負担軽減につながり、支援の質・量の向上への効果が期待できる。
- また、保険者支援の効果を高め、効率化や支援機能を向上させるための事業報告会のあり方について検討する。

短期的な検討事項	検討事項	検討の具体的な内容（案）
	I. 報告や調査の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 制度等の動きや報告調査の活用を踏まえた対応、回答者の負担軽減や結果の利活用を踏まえた報告様式・調査項目や適切な実施時期・公表時期の設定 ✓ 国保連合会の取組状況の把握の実施
	II. マニュアル・ガイドライン等の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 初版策定時からの環境の変化を踏まえ、資料の位置付け、目的など資料の体系的な整理の実施
	III. 事業報告会のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 制度等の動きや保険者支援の効率化、機能向上に資するテーマの設定、開催時期

中長期的な検討事項	検討事項	検討の具体的な内容（案）
	IV. 支援・評価委員会、運営委員会の役割・体制のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保険者支援の効率化や機能向上、支援・評価委員会の役割・体制 ✓ 連合会・支援評価委員会の課題解決につながる運営委員会の役割
	V. 国保連合会支援のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 支援の方向性を踏まえた支援メニュー、支援モデル ✓ 中央会の支援計画の策定
	VI. ヘルスサポート事業の推進体制のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 関係機関との役割分担
	VII. 人材育成のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保険者支援における専門性を高めるための研修 例えば、データ分析やデータ利活用における専門性向上に向けた研修体系の検討

I. 報告や調査の見直し

【前回いただいたご意見】

＜報告書様式の内容に関するご意見＞

- 今まで支援・評価委員会では、健康課題の分析に力が入っていたが、評価から改善（C→A→P）へ意識できるような様式や支援票等を作成することで、評価から改善が大事であるということを誘導することが可能ではないか。

＜報告書様式（一部調査）の方法に関するご意見＞

- 調査で独自にやっている支援を集計するというものであったが、支援票等がある程度整理された形になって、それを集計すれば実績になるという形にすればいいのでは。支援は支援とまとめはまとめのような方向性でよいのではないか。支援の標準化、類型化のような感じ。
- 連合会共通の支援票で、比較や蓄積等ができるのではないか。形が整うことで、中央会の調査も容易に集計できる。保険者支援の質も上がってくる。集計を管理する仕組みが作れるのではないか。
- 支援が複雑になると報告書も大変になるので、報告書も含めて共通の支援票を用いて集計する視点をもったほうがよいのでは。支援の方向性や課題解決の手段として、見えてくるものがあるのではないか。

I. 報告や調査の見直し

【令和6年度の対応方針】

- ヘルスサポート事業報告書（年1回）の内容について、①第3期データヘルス計画策定などの制度等の動きを踏まえるとともに、②負担軽減、③報告書・調査結果の利活用を視野に、現行の報告・調査の内容を見直し、統廃合を行う。
- 詳細については、令和6年度国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会ワーキング・グループで検討する。

令和6、7年度国保・後期高齢者ヘルスサポート事業報告書 様式

- 令和6年度様式
以下の内容で事業報告書様式について見直しを検討。

項目	内容
全体	<ul style="list-style-type: none">・ 回答者の負担を考慮し、設問内容の簡素化
国保連合会票	<ul style="list-style-type: none">・ 保険者支援の取組の把握のため、保険者支援のPDCAの実態を把握し、令和6年度は保険者支援の評価に関する設問の追加を検討 <div><u>参考）令和5年度事業報告書様式（抜粋）</u><ul style="list-style-type: none">① 支援・評価委員会がヘルスサポート事業の中で長期間支援していない保険者② 国保連合会が保険者支援にあたって立てた目標③ 国保連合会が保険者支援にあたって抱えていた課題・課題への対応・支援を通じて得た効果</div> <ul style="list-style-type: none">・ 国の報告様式の内容を確認のうえ、事業報告書様式との重複を避ける

- 令和7年度様式
「国保中央会による国保連合会支援計画の策定」の方向性の検討状況も踏まえつつ、具体的にどのような様式にするか検討。事業開始時（令和7年度当初）の様式の提示を目指す。

KDBシステム活用状況調査（国保）

- データヘルス計画策定・評価等の保健事業の支援におけるKDBシステムの活用を調査するため、後期のみではなく、国保保健事業に係るKDB活用状況について調査を実施。
- 調査負担軽減の観点から、本調査をヘルスサポート事業報告書の一部に組込む。
- 調査時期については、データヘルス計画策定・評価の時期を踏まえ、2024年（計画開始年）、2026年（中間評価）、2029年（最終評価）に実施。

Ⅱ.国保中央会作成のマニュアル・ガイドライン等の見直し 【令和6年度の対応方針】

- 本会資料に重複する共通部分と専門的部分を仕分け、体系を整理（資料の集約化等）する。
保険者支援ポータル構築を検討しつつ、既存のコンテンツを活かした整理を進めることを検討する。
- 糖尿病性腎症重症化予防、高齢者保健事業などの制度の動きを踏まえ、令和6年度は①高齢者の保健事業ワーキング・グループにおいて高齢者保健事業の実施支援ハンドブックの改訂、②糖尿病性腎症重症化予防セミナーワーキング・グループにおいて糖尿病性腎症重症化予防セミナーの研修プログラムの改訂を検討する。

	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）	2026（令和8）
国の基本指針等の改訂 制度上のイベント等	糖尿病性腎症重症化予防プログラム／予防事業実施の手引き改訂 ★ 高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン第3版 ★	★標準的な健診・保健指導プログラム改訂		データヘルス計画中間評価 ★
制度改定等への対応 ※制度改定等への対応については従来通り実施		⑧糖尿病性腎症重症化予防セミナーの研修プログラム ⑨高齢者保健事業の実施支援ハンドブック ⑪医療専門職のためのKDBシステム活用マニュアル		①国保・後期高齢者ヘルスサポート事業ガイドライン
資料の集約化等		①国保・後期高齢者ヘルスサポート事業ガイドライン ②保険者支援のためのガイド ③国保データベース（KDB）システム活用マニュアル ⑤国保連合会・国保中央会保健事業の手引き ⑧糖尿病性腎症重症化予防セミナーの研修プログラム	⑨高齢者保健事業の実施支援ハンドブック ⑩データ活用事例レイアウト集 ⑪医療専門職のためのKDBシステム活用マニュアル	
事例ポータル構築 （既存コンテンツの見直し）		②保険者支援のためのガイド ⑤国保連合会・国保中央会保健事業の手引き ⑩データ活用事例レイアウト集		

Ⅲ.事業報告会のあり方 【令和6年度の対応方針】

中長期的な検討事項（Ⅳ.支援・評価委員会の役割・体制のあり方）を踏まえた、制度等の動きや保険者支援の効率化、機能向上に資するテーマの設定、及び開催時期等について検討する。

1. 現状

平成26年度以降、事業報告会において行政説明や有識者による講演の他、支援・評価委員や国保連合会事務局によるグループワークを実施している。グループワークでは、各都道府県支援・評価委員会からの取組報告やグループごとに意見交換を行っている。

<これまでの事業報告会におけるグループワークのテーマ>

No.	開催年度	テーマ
1	2014（平成26）	「保険者等への支援状況について」
2	2015（平成27）	「これからの保険者支援のあり方について」
3	2016（平成28）	「支援・評価委員会の今後のあり方」
4	2017（平成29）	「第2期データヘルス計画策定に向けたサポートシートの活用と今後の支援の在り方について」
5	2018（平成30）	「個別保健事業の支援における保健事業支援・評価委員会の活動について」
6	2019（令和元）	「個別保健事業（糖尿病性腎症重症化予防事業、高齢者の保健事業等）の支援について」
7	2020（令和2）	－
8	2021（令和3）	「保健事業支援・評価委員会の支援における現状と課題、支援の工夫等について」
9	2022（令和4）	「各都道府県の取組の現状と課題、その対応について」 ・昨年度の報告会で挙げた課題、今年度の現状とさらなる課題
10	2023（令和5）	「国保及び高齢者保健事業の第3期データヘルス計画策定支援の振り返りとこれからの保険者支援について」

※2020（令和2）年度は開催せず。

2. 事業報告会で出た意見

- ・ 支援を希望する保険者数は確実に増えており、事務局の支援負担、支援・評価委員の負担増や限られた時間でいかに効率的に支援を行うかが課題（令和4年度、令和5年度）
- ・ 担当者や委員の増員にも限界があり、効率的な支援の実施の方法の模索が進められているが、集団支援の活用や一件あたりの相談時間を限定することなどで対応している国保連合会も見られる（令和4年度）
- ・ 一体的実施に関しては、高齢者を対象とすることによる保健事業の違い、専門領域が異なることなどがあり、支援の内容で苦心している状況が見られる（令和4年度）

国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会

【令和6年度実施内容（案）】

項目		実施（検討）内容	対応する検討事項
1	【委員会】国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会	○ 令和6年11月、令和7年3月 開催予定	－
2	【WG】国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会ワーキング・グループ	○ 令和6年8月 開催予定	－
3	【イベント】保健事業支援・評価委員会/委員による報告会	○ 令和6年12月 開催予定	－
実施内容 (1)～(6)	(1) ①－1【継続】令和5年度国保・後期高齢者ヘルスサポート事業報告書・国保連合会事業報告書（高齢者の保健事業セミナー・糖尿病性腎症重症化予防セミナー実施状況調査含む）取りまとめ	○ 令和5年度事業報告書取りまとめ（8月速報値、12月確報値報告）の実施 ○ 令和6年度事業報告（例年通り12月）の様式提示、令和7年度事業報告については、事業開始時（令和7年度当初）の様式提示を目指す	【検討事項Ⅰ】 国保中央会が実施している報告や調査
	(2) ①－2【見直し】令和6、7年度国保・後期高齢者ヘルスサポート事業報告書（高齢者の保健事業セミナー実施状況調査）様式	○ 様式について、設問内容の簡素化や保険者支援の取組の把握に資する設問内容への見直し、国の報告様式との調整等の検討	
	(3) ②－1【見直し】高齢者の保健事業におけるKDBシステム活用状況調査(後期)	※ 高齢者の保健事業ワーキング・グループで検討のうえ実施	
	(4) ②－2【新規】KDBシステム活用状況調査（国保）	○ 後期のみではなく、国保保健事業に係るKDB活用状況について調査を実施することを検討	
	(5) 【見直し】支援・評価委員会報告会	○ 報告会の開催目的・運営委員会の役割、保険者支援に資するテーマ設定や開催時期の見直しの検討 ○ 令和5年度収集した助言集をもとにひな形作成の検討	【検討事項Ⅲ】 事業報告会のあり方
	(6) その他、課題への対応の検討	○ 引続き中長期的な課題整理、マニュアル・ガイド以外の見直し、標準的な保険者支援の在り方、委員会・WG等の建付け・諮り方の検討 等	【検討事項Ⅳ～Ⅶ】 （中長期的な検討事項）

※検討事項Ⅱ.マニュアル・ガイドライン等の見直しについては、制度等の動きを踏まえ、令和6年度は①高齢者の保健事業ワーキング・グループ、②糖尿病性腎症重症化予防セミナーワーキング・グループにおいて検討する。

今回ご意見いただきたい事項

① 短期的な検討事項における令和 6 年度の進め方（検討内容・方法等）について

I. 報告や調査の見直し

II. マニュアル・ガイドの見直し

III. 事業報告会（支援・評価委員会報告会）のあり方

② 中長期的な検討事項における今後の展望について

IV. 支援・評価委員会、運営委員会の役割・体制のあり方

V. 国保連合会支援のあり方

VI. ヘルスサポート事業の推進体制のあり方

VII. 人材育成のあり方

中長期的な検討事項

論点

- 連合会・支援評価委員会の支援の効率化や充実に向けて、ニーズに対応した支援とは何か。
- また、その支援を確実なものとするために中央会（本委員会）としての取組むべき事項はどのようなことか。
- 支援の方向性に基づく人材や体制のあり方についてどのように考えるか。

短期的な検討事項	検討事項	検討の具体的な内容（案）
	Ⅰ. 報告や調査の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 制度等の動きや報告調査の活用を踏まえた対応、回答者の負担軽減や結果の利活用を踏まえた報告・調査項目や時期 ✓ 国保連合会の取組状況の把握の実施
	Ⅱ. マニュアル・ガイドライン等の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 初版策定時からの環境の変化を踏まえ、資料の位置付け、目的など資料の体系的な整理の実施
	Ⅲ. 事業報告会のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 制度等の動きや保険者支援の効率化や機能向上に資するテーマの設定、開催時期

中長期的な検討事項	検討事項	検討の具体的な内容（案）
	Ⅳ. 支援・評価委員会、運営委員会の役割・体制のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保険者支援の効率化や機能向上、支援・評価委員会の役割・体制 ✓ 連合会・支援評価委員会の課題解決につながる運営委員会の役割
	Ⅴ. 国保連合会支援のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 支援の方向性を踏まえた支援メニュー、支援モデル ✓ 中央会の支援計画の策定
	Ⅵ. ヘルスサポート事業の推進体制のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 関係機関との役割分担
	Ⅶ. 人材育成のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保険者支援における専門性を高めるための研修 例えば、データ分析やデータ利活用における専門性向上に向けた研修体系の検討

「Ⅳ.支援・評価委員会、運営委員会の体制・役割」に関するご意見

- 後期のように、標準様式があれば、何が出来ていないかがわかる。わからない場合は、今は紙の時代ではないので、関連資料をクリックして参照しながら支援できる。マニュアル等を含め膨大な資料の整理等は連合会の事務局機能として整理し、保険者の共通課題については、資料提供も含め事前の準備をしたうえで支援・評価委員会を行うことで、支援の質があがるのではないか。
委員も専門外のことを調べて助言する場合もあるので、何を基になる考え方があることが、委員の負担を軽減できる意味でも重要。

「Ⅴ.国保中央会による国保連合会支援内容の見直し」に関するご意見

- 今年度は最終評価と次期計画策定が大事。データヘルス計画と都道府県の医療費適正化計画を紐づけながら中期的にやろうとする仕組みが見えてきた。都道府県の役割を整理し、その役割を担うよう厚生労働省から積極的に働きかけがあるとよい。
当初、連合会は単年度の事業から始まり、単年度の繰り返しで長くなっている。中期的な視点から連合会も動いてきている。試行錯誤だったところもルーチン化できるところは移行していくことが必要ではないか。

「Ⅵ.ヘルスサポート事業の推進体制（今後の保険者支援の範囲）」に関するご意見

- 公衆衛生分野との連携が大事。データ分析等のノウハウがある保健所を活用する（場合によっては一体となって）等をもう少し書けないものか。